

## 環 境 水 道 委 員 会 記 録 (No. 7)

1 日 時 令和7年6月12日(木)  
午前 9時59分 開会  
午前10時39分 閉会

2 場 所 第5委員会室

### 3 出席委員(9人)

委 員 長	日 野 雄 二	副 委 員 長	荒 川 徹
委 員	戸 町 武 弘	委 員	田 中 元
委 員	たかの 久仁子	委 員	木 畑 広 宣
委 員	泉 日出夫	委 員	奥 村 直 樹
委 員	村 上 さとこ		

### 4 欠席委員(0人)

### 5 出席説明員

上下水道局長	廣 中 忠 孝	総務経営部長	中 島 尚
総務課長	浜 崎 善 則	水道部長	一 田 大 作
計画課長	長松軒 清	配水管理課長	石 井 秀 雄
			外 関係職員

### 6 事務局職員

書 記	山 下 絵美理	調 査 係 長	筒 井 大 亮
-----	---------	---------	---------

## 7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	陳情第4号外4件について	別添陳情一覧表の陳情5件について、閉会中継続審査の申出を行うことを決定した。
2	ライフラインの強化と持続可能な上下水道事業の推進について	上下水道局から別添資料のとおり説明を受けた。
3	大規模自然災害や火災に備えた防災・減災対策について外2件	別添所管事務調査一覧表の事件について、閉会中継続調査の申出を行うことを決定した。

## 8 会議の経過

○委員長（日野雄二君）開会します。

本日は、陳情の審査及び所管事務の調査を行います。

初めに、陳情の審査を行います。

本委員会に新たに付託された陳情4件を含む、お手元配付の一覧表記載の陳情5件については、いずれも閉会中継続審査の申出を行うことに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり。）

ありがとうございます。御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で陳情の審査を終わります。

次に、所管事務の調査を行います。

まず、ライフラインの強化と持続可能な上下水道事業の推進についてを議題とします。

本日は、京都市水道管漏水事故を受けた本市独自の緊急漏水調査の結果について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。配水管理課長。

○配水管理課長 それでは、京都市水道管漏水事故を受けた本市独自の緊急漏水調査の結果について御報告いたします。

お手元のタブレット資料を御覧ください。

まず、独自の緊急漏水調査に至った経緯についてです。

令和7年4月30日に、京都市で、水道管の破損に起因する大規模漏水事故が発生し、国道1号が冠水して深刻な渋滞が発生したほか、近隣の半地下の駐車場に止めていた車が浸水するなど、市民生活に大きな影響を与えました。この漏水事故を受け、京都市で破損した水道管と同等の水道管約35キロメートルを対象に緊急漏水調査を実施してまいりましたが、このたび調査結果がまとまったため、御報告いたします。

なお、今回の調査では、対象水道管からの漏水は発見されませんでした。

調査の概要について御説明いたします。

調査期間は、5月2日から5月30日です。

調査対象は、口径30センチ以上の铸铁管約35キロメートルです。

調査方法は、対象水道管が埋設されている道路の目視調査及び漏水音聴調査です。

調査結果とその対応についてですが、道路の目視調査及び漏水音聴調査の結果、対象水道管自体に漏水は認められませんでした。しかし、2件の軽微な不良が発見されました。1件目は、対象水道管に設置されている、水道管内にたまった空気を排出するための空気弁というものがございしますが、その空気弁の保護をするカバーのボルトナットが欠落しておりました。2件目は、対象水道管から分岐して一般家庭に給水する口径2センチの給水管が漏水をしておりました。2件ともに迅速に対応し、既に修繕は完了しております。

今後の取組についてですが、今後も上下水道施設の老朽化が進む中、安全確保に向けた不断の取組として、日頃からの水道管の点検、維持、補修に努めてまいります。また、衛星とAIを活用した漏水調査の実施など、新技術も活用しながら、効果的な点検、調査を行ってまいります。さらに、老朽化した铸铁管の計画的な更新も引き続き取り組むこととしております。

その他として、国土交通省は、同じく京都市の大規模漏水事故を受け、5月7日付で全国の水道事業体に対し、老朽化した铸铁管の緊急調査の実施を要請いたしました。国土交通省からの緊急調査の要請を受け、先行実施しておりました本市独自の緊急漏水調査に加え、約20キロメートルの国土交通省要請調査を行いました。20キロメートルの中で対象水道管の漏水は発見されませんでした。

以上で報告を終わります。

**○委員長（日野雄二君）** ありがとうございました。

ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。泉委員。

**○委員（泉日出夫君）** それでは、私から何点かお聞きしたいと思います。

まず、この緊急調査お疲れさまでした。

今回のこの緊急調査によって、2件ですかね、修繕が必要なところが見つかったということですが、これは今回緊急調査を行わなかったら見つからなかった、いわゆる修理が必要な箇所だったのかどうなのかということが1点と、あと、衛星とAIを活用した漏水調査、この間、実証実験をされてきたと思うんですが、この実証実験の結果、これが効果的な調査になるのかどうなのかということをお聞かせいただきたい。また、今後この調査によって日常点検をされていくのかということをお聞きしたいと思います。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** まず、今回の緊急漏水調査の中で発見された2件について、この調査を行わなければ見つからなかったのかということですが、このうち1件目の空気弁のボルトナットの欠落については、空気弁自体から漏水をしているわけではなく、弁室を開けて確認しないと分からないということで、今回、空気弁自体の機能に問題はなく、また、漏水も発生はしていませんが、保護するカバーが取れていたということで、今回設置させていただきました。これは今回の緊急調査でなければ分からなかったと思います。

もう一件、給水管の漏水について、これは歩道上での漏水になりますので、今回の緊急漏水調査で回ったおかげで早く見つかったと思っておりますが、地上に少し漏水していたのが上がってきたということですので、遅かれ早かれ見つかったのかなとは思っております。

2点目の、衛星とA Iの実証試験は今行っております。令和4年度から今までに3回行っており、これが効果的かどうかということですが、衛星とA Iで漏水調査を行うメリットは、市内全域の漏水調査を行うことができるということです。これまでは、今回の緊急漏水調査で行ったように、人が歩いて回らないといけないところを、衛星からの画像とA Iを活用することによって市内全域を一度に見ることができます。いわゆるスクリーニング調査のような形で、約10%から15%程度に漏水が起こっている可能性がある管の延長を絞り込むことができるため、そこに対して歩いて漏水調査をすることで、効率的になっていると思います。

衛星とA Iを活用した漏水調査のメリットは、市内全域をカバーできること、また、絞り込みができることで、効果的な漏水調査ができているものと思っております。今後もこれを続けていきたいと思っております。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 泉委員。

**○委員（泉日出夫君）** 今回見つかったものはこの報告書にあるように軽微なものだったということで、大きな損害の状況ではなかったと理解をいたしますが、今回の緊急調査によって見つかったという意味では、今後もやっぱりこういう点検は定期的に必要なのかなと思います。あと、A Iを使った、特に衛星を使ったこの点検というのは、これは今全国的にもこういう流れになってきているのか、そのところを教えてください。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** まず、国が、衛星とA Iを活用した漏水調査を上下水道D Xの中の一つの重要な施策として推進するとしております。衛星とA Iの漏水調査を行っている業者のホームページからは、100か所以上の水道事業体が採用しているという情報も得ておりますので、全国的な流れなのかなと思っております。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 泉委員。

**○委員（泉日出夫君）** 分かりました。ありがとうございました。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** ほかにございませんか。村上委員。

**○委員（村上さとこ君）** よろしくお願いいいたします。

日頃から水道インフラを保守していただき、市民として大変感謝しております。今回も緊急点検ということで、それが市民の安心につながっていくと思っております。

お聞きしたいことがございます。5月28日のNHKニュースで、AIや人工衛星の活用などとともに、最も大事なのが住民からの通報であると見ました。例えば、晴れの日が続いているのに路面がぬれていることなどがあると、市民から通報が必要ではないかという報道が流れておりました。

本市では、道路や公園などの建物破損をスマホなどを用いてオンライン通報できるシステムが導入されています。その中に、例えば水道管という項目を入れて注意喚起をすることが必要ではないかなと思うんですが、そういった工夫をされる予定はございますでしょうか。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** まず、委員がおっしゃるように、地上に上がってきた漏水は住民通報をいただいて迅速に修繕するということは日常的にあっております。そのたびに、通報いただいた方に感謝を申し上げつつ、修繕結果も報告させていただいているところです。

今御提案がありましたオンラインということで、すみません、私は存じ上げなかったんですが、今後、オンラインで通報ができるシステムがあるのなら、積極的に採用していきたいなと思っております。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 村上委員。

**○委員（村上さとこ君）** ありがとうございます。

ざっと分かる範囲で、住民通報は年間にどれくらいですか。分かれば。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** 住民通報の件数は、把握していないところで、今数字を言うことはできません。申し訳ないです。

**○委員長（日野雄二君）** 村上委員。

**○委員（村上さとこ君）** 住民の通報が大切だということはここで確認できたと思います。住民の目というのは本当に何十万の目がありますので、引き続き呼びかけていただきたいと思いますと思っております。

本市の水道自体の老朽化率と耐震化率についてお伺いいたします。

2021年までの資料は見つけられたんですが、直近の老朽化率、耐震化率が分かれば教えてください。

**○委員長（日野雄二君）** 計画課長。

**○計画課長** まず、老朽化率ですが、水道管の法定耐用年数が40年となっております。我々は、40年が来たらすぐに水道管を取り替えるわけじゃなくて、できるだけ長く使うという形で、アセットマネジメントを使って、今現在、配水管の更新計画をしております。

令和5年度の資料になりますが、水道管、配水管を対象にさせていただきますと、大体4,200

キロメートルの配水管の総延長がございます。そのうち28%が40年を経過した法定耐用年数を超えたものでございます。

耐震化率につきましても、現在、中期経営計画2025、今年度までの中期経営計画の中でも、基幹管路の耐震化率を51.6%まで上げようということによっております。現在、基幹管路が51%で、全国平均よりは若干いいというところでございます。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 村上委員。

**○委員（村上さとこ君）** 日頃からいろいろ点検、努力していただいていることがよく分かりました。市民としても、協力できることは何でもしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** ありがとうございます。ほかにございませんか。戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** 今回、鑄鉄管35キロメートルということですが、この鑄鉄管は今もう製造が中止になっているわけですね。今北九州市で鑄鉄管を使っているのは今回検査した35キロメートルだけなのか、それともまだ残っているのかを聞きたいと思います。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** 今回の緊急漏水調査は、京都市で漏水事故が起こったのが直径30センチの鑄鉄管ということで、緊急的に行いたいということで、口径を30センチ以上に絞って調査させていただきました。それよりも小さい鑄鉄管もまだ残っており、合計すると約100キロメートル近くまだ残っているということで、今も計画的にこの鑄鉄管を対象に更新を行っているところであります。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 戸町委員。

**○委員（戸町武弘君）** これはネットの資料なんですけど、見ていると、随分古い管になっているんじゃないかなと思っております。今後、小さい管についても時期を見てぜひ検査をやってください。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** ありがとうございます。強い要望として。奥村委員。

**○委員（奥村直樹君）** この間、福岡市の陥没のニュースもあったり、最近こういうニュースがとて多いように感じます。注目されているから目につくのかなという気もしますが、過去と比べて、北九州市というよりも全国的に今頻度が高いのか、それとも、昔からあったけど今注目されているのか、どのように捉えられているかをまず教えていただけますでしょうか。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** 委員御指摘のとおり、今マスコミでよく取り上げられているとは個人的に感じております。まず、北九州市においては、積極的に老朽管の更新を進めてきた結果、漏水事故の件数は減ってきております。市民の皆様には御迷惑をかけるような、断水が10戸以上とか、あとは交通に支障を来すような漏水事故は、今、平均で年間10件程度起こってはいますが、幸いにして京都市のような大規模な漏水事故は近年は起こっていない状況です。

ただ、全国的な傾向としては、我々もマスコミ等のニュースに頼らざるを得ないところはありますが、確かに増えてきているのかなというのがありますし、マスコミも従前よりは取り上げる件数が増えているのかなとも感じております。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 奥村委員。

**○委員（奥村直樹君）** データはないということですが、感覚からすると北九州市は今非常に頑張っていて安全な状況を維持しているというふうに捉えました。例えば今回の京都市のように、どこかで大きな事故が起きると、国からの要請でチェックをしなければいけないと。そうすると、ふだんから先んじてやっている自治体にとって結構負荷になりかねないかなという気がします。ふだんやっていることで例えば国から要請がありました、いや、うちはふだんからやっているからここはもうやらなくていいですよと言えるのか、それとも、要請があればやっぱり全部やらなきゃいけないのか、どんな状況でしょうか。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** 今回のケースでいきますと、厚生労働省から国土交通省に水道の維持管理の所管も替わりました。個人的には、国土交通省に替わってから調査や指導等が重くなってきたのかなと感じています。今回のケースも、我々は先んじて独自で調査を行っていましたが、国土交通省から全国的に調査しなさいということで要請を受けて、追加で20キロメートル行ったところではあります。国土交通省からは、今調査してください、今こういう事象が起こっているのでも今行ってください、すぐ報告してくださいと言われているところです。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 奥村委員。

**○委員（奥村直樹君）** 要請なのでやらざるを得ない面もあるでしょうし、市民感情としても確かに、今どうなんだというニーズもあると思います。ただ、ふだんやっていると、ほかの都市と比較した場合に、やって悪いことじゃないんですけど、お金と手間もあると思うので、今後こういう要請が増えてきたときにどう対応していくのかということも考えながら、例えば、ここはもう既に間違いなくやっているってところは除外していいかって言えるのかどうかということも、今後の状況によっては考えてもらえたら。皆さんの手間もあるからと思ひまして意見させていただきました。また検討いただければと思います。終わります。

**○委員長（日野雄二君）** ありがとうございます。ほかに。木畑委員。

**○委員（木畑広宣君）** 本当にいつもありがとうございます。1点だけ教えてください。

その他の国土交通省の対象の水道管について、これは今までの独自調査の配管とどう違うのかだけ教えていただきたいと思います。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** 今回国土交通省からは、緊急輸送道路の下に埋設されている鑄鉄管を調査しなさいと要請を受けました。緊急輸送道路とは、災害等が起こった緊急時において、物流等の機能を停止させないための重要な道路として、高速道路や国道、そのほか国道を連絡する重要

な基幹道路のことを緊急輸送道路として国土交通省が示しております。その下に入っている鑄鉄管について調査しなさいと言われてました。

今回、市内で調査したところ、我々が先行実施している緊急漏水調査でカバーしていない緊急輸送道路下に入っている鑄鉄管が20キロメートルあったということで、追加で調査を行ったものです。以上です。

**○委員長（日野雄二君）** 木畑委員。

**○委員（木畑広宣君）** 分かりました。ありがとうございました。

**○委員長（日野雄二君）** ほかにございませんか。荒川委員。

**○委員（荒川徹君）** 上下水道事業は市民生活に非常に密着したインフラなんで、日頃から皆さんに頑張ってもらっていることにまず敬意を表したいと思います。

それで、2件の軽微な不良ということです。これは決定的なものじゃないということですが、空気弁のボルトナットが欠落していたというのは、これは自然に脱落したりするものなのか、あるいは閉め忘れたものなのか、そういう人為的なミスなのかというのを教えてください。

それから、衛星とA Iを活用した調査ですが、これによって絞り込みができると言われてましたが、省力化ができて、その資金あるいはマンパワーを他に活用できるというものなのか、あるいは、これをやることによるコストはどれぐらいなのかを教えてください。

また、国土交通省の要請に応じて実施した20キロメートルの調査は、やはり口径30センチ以上の鑄鉄管ということでしょうか。以上。

**○委員長（日野雄二君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** まず、空気弁のボルトナットの欠落については、腐食によるものと考えております。ただ、あまりこういう事象が起こることはないので、不定期ではありますが空気弁の点検等も行っております。もしかしたら空気弁を点検する中でボルトナットのつけ方が甘くて欠落した可能性も捨て切れないというところではあります。そのため、100%腐食でもないし、100%人為的かはちょっと不透明ではありますが、今回きちんと補修させていただいているということです。

続きまして、衛星とA Iの漏水調査のコストについてです。

これまで、衛星とA Iの漏水調査を行う業者も、新しい技術のお試し価格ということで、かなり割引していただいております。ただ近年、先ほど申しましたように国も上下水道DXでこの衛星とA Iを活用した漏水調査をカタログ化して全国に普及するといった中で、また、100事業体以上が今採用しているというところで、今年度から正規価格でお願いしますと言われております。コスト的に言いますと、衛星とA Iを使った漏水調査は1,000万円もしない金額でできていたのが今は3倍近くになっています。実証実験の中で、ほかの業者の技術やコスト面の比較もしながら、本市にとって一番いい方法を今模索しているところになります。

最後に、国土交通省からの調査ですが、今回は口径の縛りはございませんでしたので、小さ

い铸铁管から大口径まで、緊急輸送道路下に入っている铸铁管の調査を行わせていただきました。以上です。

○委員長（日野雄二君） 荒川委員。

○委員（荒川徹君） ありがとうございます。

空気弁のボルトナットが外れてカバーがついていないと、何か支障はないんですかね。

それから、AIと衛星を活用した調査で、今までの人による調査と比べてコストが低減できるのか、そのために今までそこに従事していた人をほかの業務に振り当てたりできるのかというのはどうなんでしょうか。

○委員長（日野雄二君） 配水管理課長。

○配水管理課長 空気弁は、保護するカバーですので、あったほうがいいということですが、それがなくても機能的に問題が生じるとか漏水が発生するというものではございません。

衛星とAIですが、基本的には全ての漏水調査は今委託をしております。そのため、我々職員の手間が減るということはなく、絞り込みを行うことで、より効率的、効果的に漏水を見つけることができるものと考えております。以上です。

○委員長（日野雄二君） 荒川委員。

○委員（荒川徹君） 分かりました。ありがとうございます。

特に上水の場合、今後の経営が非常に厳しいということも聞いていますので、できる限りコストの低減に努めていただくのと、今有しているマンパワーについては有効に活用していただきたいということを要望しておきたいと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君） ほかにございませんか。

ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（荒川徹君） 日野委員。

○委員（日野雄二君） 私から数点お伺いします。今の荒川副委員長からお話があった件で、これはその弁がなくても大丈夫だということですが、どうなんでしょう。先ほどからいろいろ出ている中で、漏水を起こす原因の中に、他の工事、道路工事との関連で誤って上下水道局の管を傷める、これは技術監理局とどこまで共有できているのか。他の工事で傷めた傷が原因で漏水になると、これは技術的なものがあるかと思いますが、実際に上下水道局でそういうことを感じているのか、それがまず1点。

それから、緊急道路の配水管の点検を今度はしたということですが、この緊急道路は全て耐震化に対応できる水道管に切り替えているのか。

それから、この耐震、要するに地震に強い管、これの耐用年数は普通の管と比べてどれだけあるのか。全て耐震構造の管にすべきではないという、場所にもよるでしょうし、いろいろあるでしょうが、それを上下水道局としてどの程度考えているのか。これは、時間とお金が非常

にかかります。それをどこまできっちり整備するのかということだろうと思います。

それに、管が40年、50年で駄目になる要因は何なのか。管の入っている深さなのか。深く入れたら長くもつのか。水道事業は100年以上、門司市の時代からやっていて、多くの老朽化している管はやっぱり古くからあるところから、切替えがどこまでできているか分かりませんが、区別に見てどうなのか。入替え、やり替いをやらないといけないのは順調に進んでいるのか。

それから、最後に1点、市民から水道料金が高いと言われて、話を聞くわけですね。月に1万円と言うけど、それはちょっと漏水しているんじゃないのと、そういうときに相談するところ。また、やっぱり地元の業者を育成していかないといけないし、漏水管の調査も、地元の業者で多分やっておられると思うんですが、地元の業者のレベルが上がっていくことが当然必要であります。そこのところの対応についてどういうふうにされているのか。市民にとっても、料金は1万円以上払っていて、何か心配になってきたよということもあるんで、そういう声はよく聞かれますか。以上。

**○副委員長（荒川徹君）** 配水管理課長。

**○配水管理課長** まず、他工事による漏水事故について御説明いたします。

工事を行う際には、こういう工事を行いますということで、九電やガス会社と、こういう掘削をします、地下埋設物はどうですかということで事前にお知らせした上で協議をして、安全に工事ができるという確認をした上で工事をしております。

とはいえ、他工事による水道管の破損事故が起きているのは事実です。私の記憶の新しいところでいくと、去年ですか、八幡東区で、九州電力さんが電柱を立てるというのに、オーガーで電柱用の掘削をしていたところ、水道管にぶち当てたということがございました。結構大きな管でしたので、そのときは我々も徹夜で対応させていただきました。そのため、事前の調整や調査は非常に重要であると我々も感じており、こういったことが我々自身にもないように気をつけていきたいと思っております。

あと、緊急道路の下に入っている水道管についてですが、今現在、我々は緊急輸送道路だけでなく全ての道路に新設する管について耐震管を使用しております。耐震管の耐用年数ということですが、管自体も各管メーカーが改良を年々行っており、現在は外面塗料等の質が向上して、100年もつ管ということで最近の管は言われております。我々もそういった、より質の高い管路で耐震管ということで更新をさせていただいているということになります。

あと、委員御指摘のとおり、門司区は北九州市の水道の発祥の地ということで、他の区と比べるとやはり古い管がまだ残っていると感じております。そのため、門司区も含めて古い管路は耐震管に計画的に取り替えているところではございますが、私の感覚で申し訳ないですけど、門司区はやはり古い管路がまだ多く残っていると感じているところです。以上です。

**○副委員長（荒川徹君）** 計画課長。

**○計画課長** 法定耐用年数40年で替えるのかというところでございますが、法定耐用年数は地

方公営企業法で決まっております。要は収支の経理上、減価償却を算出するために決められた年数でございます。しかも、昭和の初め、古い時代につくられたものでございまして、今配水管理課長からあったように、今の水道管なら100年もつであろうというふうに想定しているところでございます。

ただ、水道管はどうやって劣化していくのかというお問合せですが、まず水道管は外側から腐食するものと考えています。したがって、道路というか埋設の土壌の環境、その辺が、今は再生チップという形で埋め戻し材料を変えて、腐食しにくいものになっておりますのと、ポリスリーブという形で、ビニールを巻いて、直接水道管と道路が接触しない施工をしております。したがって、今のはもう当然長くなるんですが、どうしても昔は現場で掘った土をそのまま埋め戻すという形で、外から腐食が進むと考えられております。

それと、更新について、当然、古いところ、新しいところとございますが、業務量というか仕事の量も踏まえて、現中期経営計画で185キロメートルの更新計画を策定しています。当然、古さも勘案する、重要度も勘案する、しかも40年から一応90年まで耐用年数を延ばしてみても、できるだけ長く使える形で事業をやっている。それと、業者のことも考えて、ある程度の行政区のバランスも考えて仕事を出しているところでございます。以上です。

**○副委員長（荒川徹君）** 総務課長。

**○総務課長** 水道料金が高いのではないかとと思われる場合の相談先についてお答えさせていただきます。

上下水道局では、お客様からの窓口をお客様センターに委託しており、こちらを御案内しております。御利用の状況ですとか、突然水道使用料が増えたとか、そういった状況をお聞きした上で必要な窓口につないでまいりますので、まずはお客様センターにお問合せいただきたいと思います。以上でございます。

**○副委員長（荒川徹君）** 日野委員。

**○委員（日野雄二君）** 今のお客様センター、それがなかなか皆さんに広がっていないというか、もう少し宣伝をしていただいて、そうすると日頃から事細かい情報が入ってこようかと思いませんから、そこで大規模な漏水を防ぐということにもつながっていきますので、ぜひその辺をやっていただきたい。

それから、上下水道局の備蓄、今、備蓄米という名前が出ていますから、要するに財源をどこまで持っているかというのと、大体100億円が今50億円ぐらいまで減ってきているんですね。だから、そんなにいろいろできないことも分かっていますが、それでもまだその辺の余力もあるかと思えますので、日頃、備えあれば憂いなしということですから、しっかり備えることに。

それから、地元の業者の皆さんを育成、技術力を上げていくことだろうと思えますし、また、料金がなかなか上げられない部分もありますが、水道料金のことも将来考えていかなければいけないということになるだろうかと思います。ぜひ頑張ってください、日頃からの備えで、安全・

安心なまちづくりのために頑張っていたいただきたいと思います。以上です。

○副委員長（荒川徹君）要望ですね。

○委員（日野雄二君）はい。

○副委員長（荒川徹君）では、ここで委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（日野雄二君）ほかに御意見ございませんか。

ほかになければ、次に、お手元配付の一覧表記載の事件について、次の定例会までの間、調査を行うこととし、閉会中継続調査の申出を行いたいと思います。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしということで、ありがとうございます。御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で所管事務の調査を終わります。

ほかになければ、本日は以上で閉会します。

---

環境水道委員会 委員長 日野雄二 ㊟

副委員長 荒川徹 ㊟